

5
月



美園小だより

令和8年4月28日
さいたま市立美園小学校
第192号 児童数 1036名
Tel 048(812)6611
Fax 048(878)6660

つなぐ、つなげる

校長 河野 秀樹



5月21日(木)に、開校15年を記念した航空写真とクラス写真を撮ります。このデザインを考えた令和7年度の代表委員は、その思いをこのように語っています。「バトンを次のランナーにつなぐ絵は、美園小学校を次の世代へと受け継ぐという意味です。みんな明るく元気なところ、いろいろなところで笑顔があふれているところ、たくさんある美園小の良いところをつないでいきたいと思いま

す。さらに、美園小のよさを増やしてほしいという願いも込めました」

職員玄関や校長室にある写真から、まちの発展や学校の様子の変遷を見ることができます。本校は大門小学校、野田小学校、新和小学校の3校から2012(平成24)年に分離、独立しました。その中心となった大門小学校のルーツをたどると、本校からも近い大興寺に行き着きます。大興寺は、戦国時代に開山し、江戸時代には寺小屋がおかれていたそうです。その寺子屋が源となり、1872(明治5)年の学制の発布を受け、大門学校が同地に設立されました。この地の人々の教育への熱い思いが伝わってきます。

昨年、福島県の相馬・双葉地区の視察で、地元や全国の校長らと懇談する機会がありました。この地区では地震・津波・原子力災害の複合災害によって児童数の激減、学校の統合、閉校だけでなく、未だに避難先で教育活動を行っている学校もあることや、15年という年月がコミュニティを壊してしまっていることを知りました。また、震災当時はまだ幼く当時の記憶がない教員が増えてきているそうです。その中でも「復興は道半ば」であるが「学校は復興の最大の拠点」の信念のもと、様々な困難や課題に向き合っている校長や教員がいることに胸が熱くなりました。

会の中で、京都の校長からこのような話を聞きました。「1872(明治5)年に明治政府は学制を発布したが、京都ではその3年前から学校ができていた。それは、明治維新により都が東京に移ったことで人口が減り、まちが衰退の危機に直面したとき、当時の京都の人々がまちの活力を取り戻すには人づくりが大切であると考え、自分たちでお金を出し合うなどして、日本で初めての学区制の学校ができた」ということでした。まちづくりに学校は欠かせないものであることを知りました。

今年のキャッチフレーズは「つなぐ、つなげる美園小」です。地域の方々が見守り、大切にしてきた思いを受け、子どもたちには、自分たちが通う学校や美園地区のことを好きになってほしいです。そして、美園小のことを自分たちで考え、守り、より良くしていこうと行動し、学校のある美園地区のことも誇りに思う人間を育てていきたいと考えます。